

女性と古典文学

—知と情と意と—

(1年 前期 2単位)

佐藤 辰雄

授業のテーマ・目標

本講では、文学の中で女性がどのようなものとして描かれ、文学をどのように創造したかを考えます。登場する人物は世界的に有名な女性もいれば、反対に全く無名の人や虚構の人ありと様々ですが、彼女らは皆、各々の美意識や愛情・情念・人生観に基づき、真剣に生きた人達です。

卑弥呼と三人の尼僧は、別に文学と関わりが深いわけではありませんが、過去の女性観を知る上で貴重な足跡を残した歴史上の人物です。女性に対する当時の社会通念を踏まえないで「女性と古典文学」を語ることはできませんので、導入として取り上げました。

時折、映像の鑑賞を通した授業も取り入れます。

授業の内容

(1) 授業内容と日程説明

(2) 各論

- ①大昔人の女性観—卑弥呼と尼僧たち
- ②神々を統べる女性神・天照大神
- ③呪的聖性を持つ万葉歌人・額田王
- ④省察に秀でた稀代の才媛・紫式部
- ⑤機知に富む後宮サロンの華・清少納言
- ⑥平安時代の貴族女性の修養
- ⑦『今昔物語集』から—安義橋の鬼女
- ⑧『平家物語』から—美しい勇士・巴御前
- ⑨『伽婢子』から—乳児に注いだ亡母の愛情
- ⑩『さんせう太夫』から—女性原理としての安寿 (DVD鑑賞を中心に)
- ⑪『雨月物語』から—嫉妬のあまり怨霊となった磯良 (いそら)

(3) 授業のまとめ、および授業評価アンケート

テキスト・教材

『女性と文学ノート』(500円)

成績評価の方法・基準

毎回の授業終了時の提出物90点と、平常点10点。

提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認(50~60字のまとめを二つ。最大4点)と、意見や感想(最大2点)の三項目。

参考書・準備学習

直木孝次郎『額田王』(吉川弘文館)、角田文衛『紫式部伝』(法蔵館)、萩野敦子『清少納言』(勉誠社)、酒向伸行『山椒太夫伝説の研究』(名著出版会)など。

注意事項

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。飲食物の持込み不可。

平成22年度入学者のみ受講可能。